

「働き方改革」

<政策コメンテーター委員会・総会 資料>

2016/07/20

電通総研 研究主席
電通総研 広聴ラボ 編集員
中尾 潤

1:消費マインドが上がらない理由

①

「将来の収入」に対する不安があると、
消費者は、お金を貯蓄に回す。

②

「所有」することへの欲求が減り、
「欲しいモノ」が減った。安くなった。

2: 日本経済の課題

①グローバル経済化

- 日本の経済成長の牽引産業は「外需型産業」
 - 「外需型産業」の雇用と技術の海外移転が進む
- ⇒「外需型産業」頼みでは、「国内雇用」の問題は解決しない

②デジタル化

- 「所有」への期待が低くなり、「モノ消費」は減少
 - 「体験」への期待は高くなり、「コト消費」は増加
- ⇒「コト消費」を活性化しないと消費は上向かないのではないか

③少子高齢化

- 「外需型産業」(製造業等)は国内で人余り
 - 「内需型産業」(サービス業等)は国内で人不足
- ⇒減少していく「現役世代」を「内需型産業」にも振り向けるには

3: 戦後モデルの日本を変えるには

①「可処分所得」を維持しつつ、「可処分時間」を増やす仕掛け

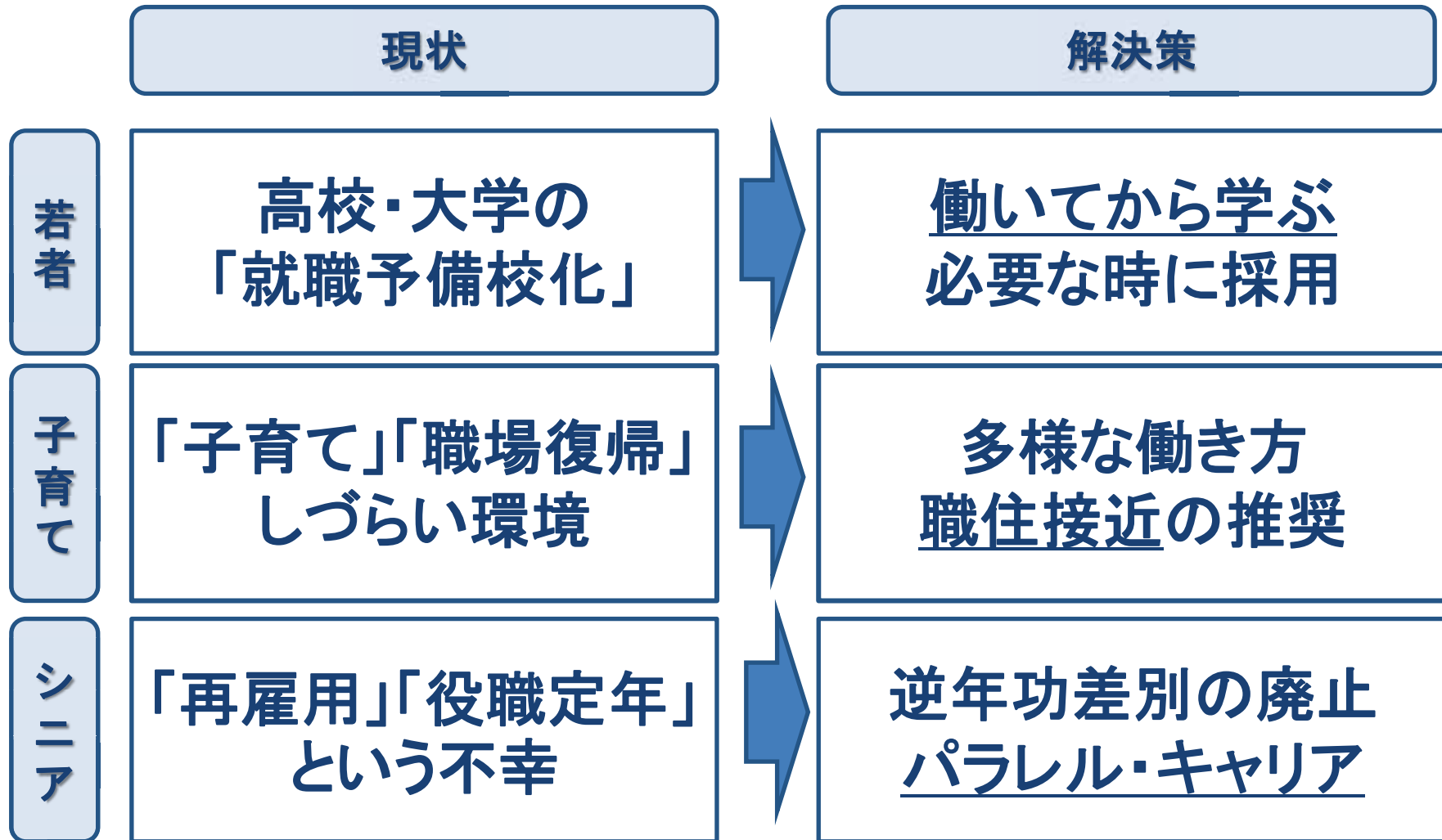
②「外需型産業」から「内需型産業」へ人を動かす仕掛け

③「人材の流動性」を高め、「多様な働き方」を提供する仕掛け



始めの一步が、「働き方改革」

4:「働き方」改革① ルールと意識を変える



5:「働き方」改革② デュアル・スタンダードをつくる

欧米型 雇用様式

「外需型」産業モデル

⇒ 国際基準に合わせる

定時退社
長期休暇

年功撤廃
多様な職能

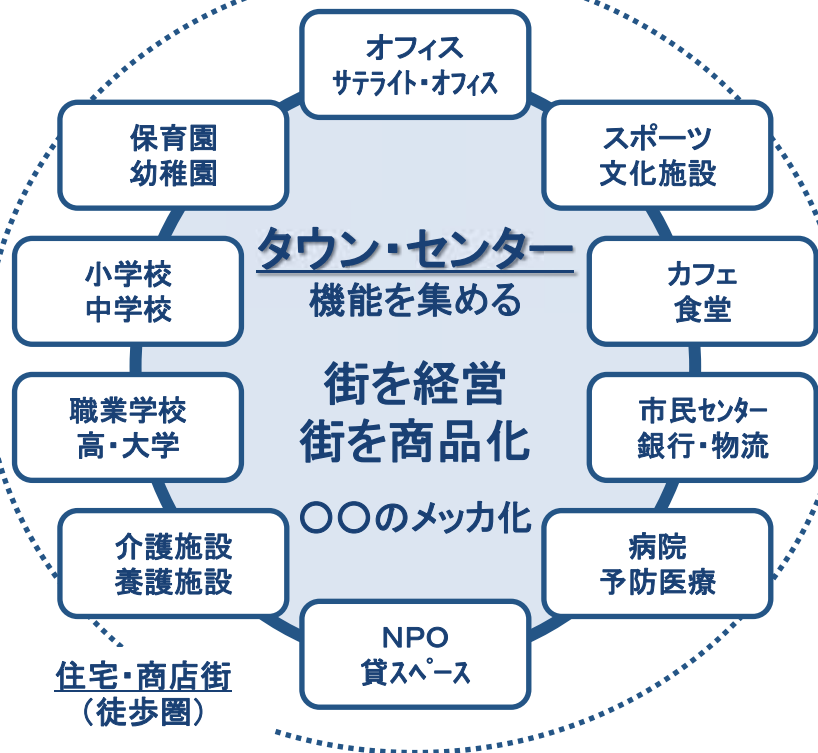
ダイバーシティー
グローバル企業

人材移動

新しい日本型 雇用様式

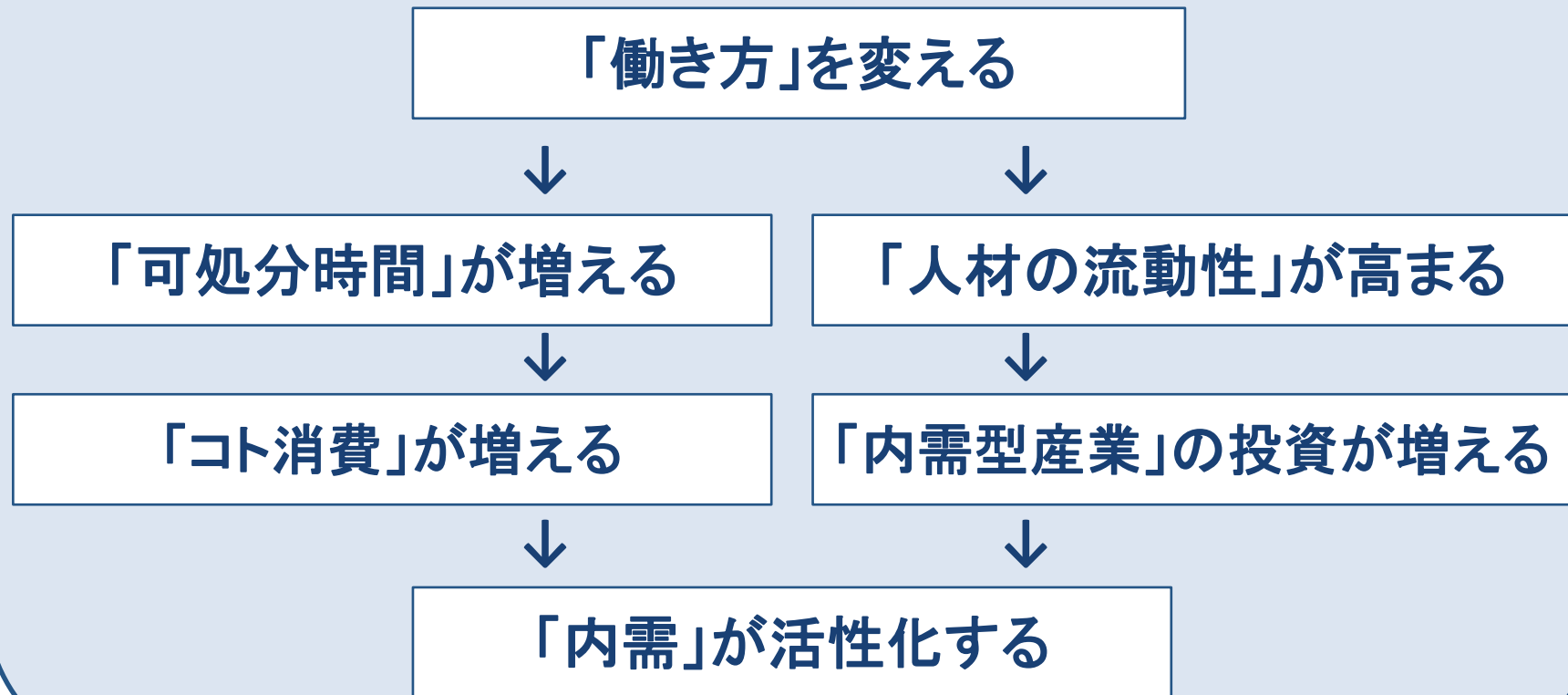
「内需型」産業モデル

⇒ 職住接近 & 3世帯近居の生態系



5:むすびに

「経済」「消費」「働き方」の好循環をつくる

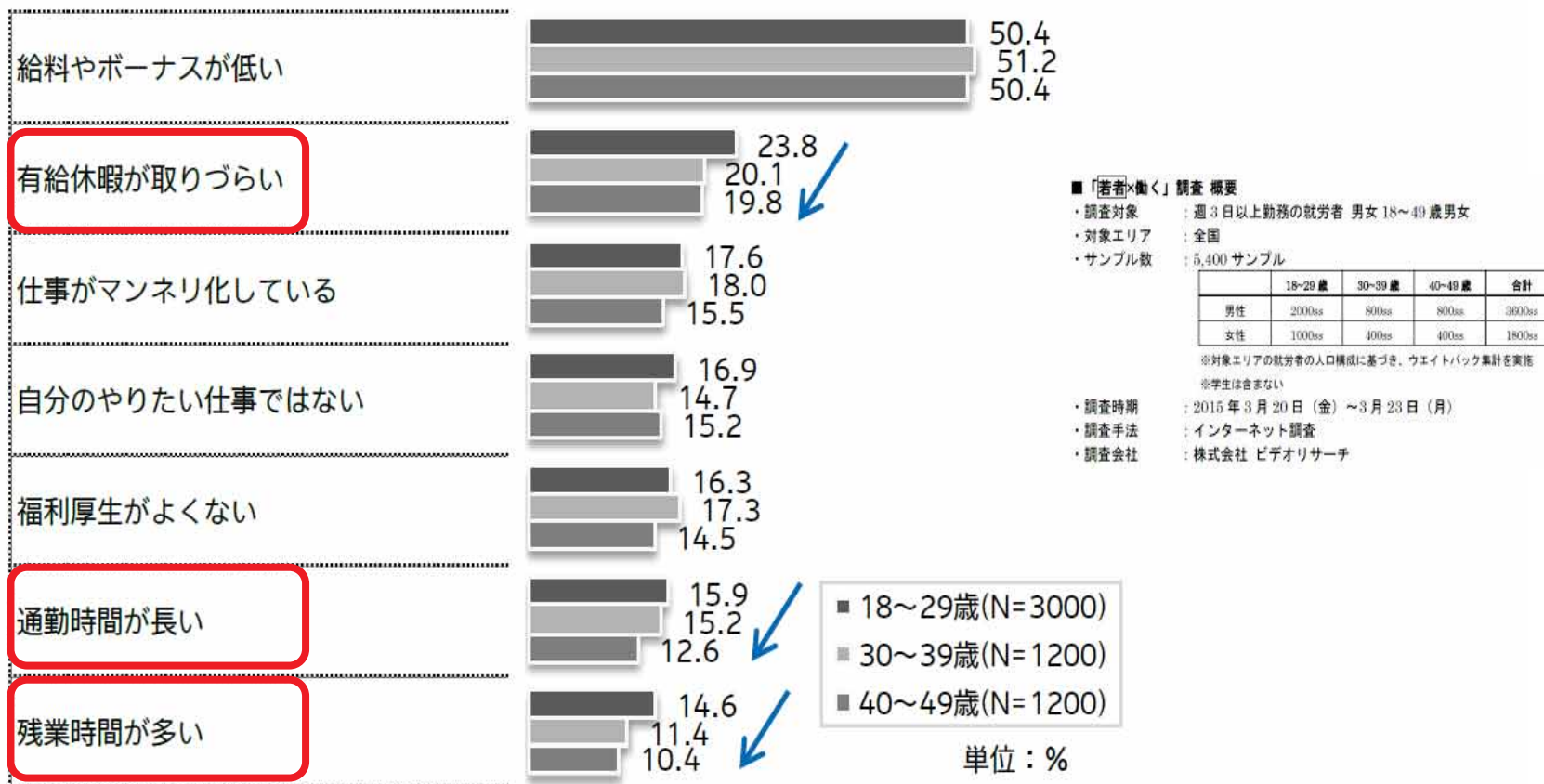


参考：電通総研「若者×働き方調査」より

給料以外の働く上での不満は「有給休暇」「通勤時間」「残業」

図2 働く上での不満

【設問】あなたは、現在働く上で不満がありますか。あてはまるものをすべてお知らせください。（複数回答）

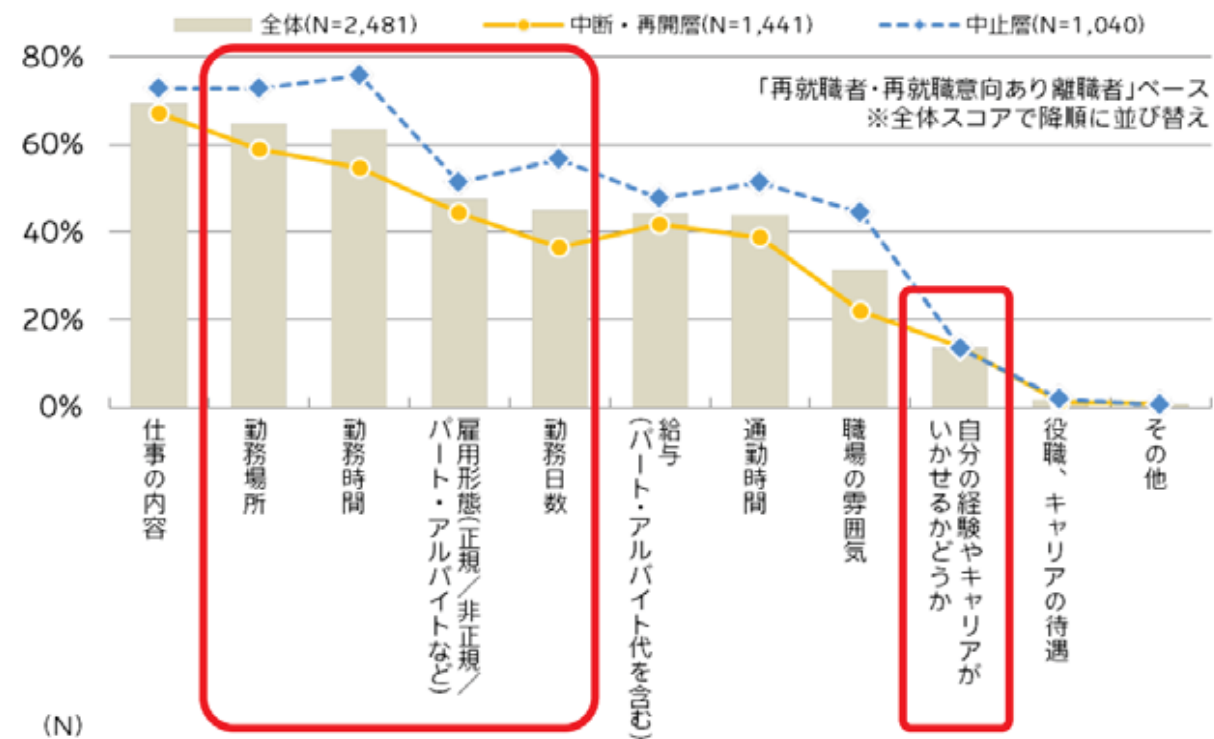


参考：電通総研「女性×働き方調査」より

再就職時の重視点は「勤務場所」「勤務時間」「雇用形態」「勤務日数」

図 18 再就職時の重視点（複数回答）

【設問】あなたは、再就職する時にどのような点を重視しましたか。あてはまるものをすべてお知らせください。



■「女性×働く」調査概要

- ・調査対象：20～59歳の就業経験のある女性、3,700名
- ・調査対象エリア：首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、関西圏（京都府、大阪府、兵庫県）、中京圏（岐阜県、愛知県、三重県）
- ・サンプル数は人口構成比に従い、下記のとおり割付

	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	合計
首都圏	494	757	842	607	2,700
関西圏	91	135	156	118	500
中京圏	98	135	148	119	500
合計	683	1,027	1,146	844	3,700

- ・調査時期：2014年12月19日（金）～21日（日）
- ・調査手法：インターネット調査
- ・調査会社：株式会社 ビデオリサーチ

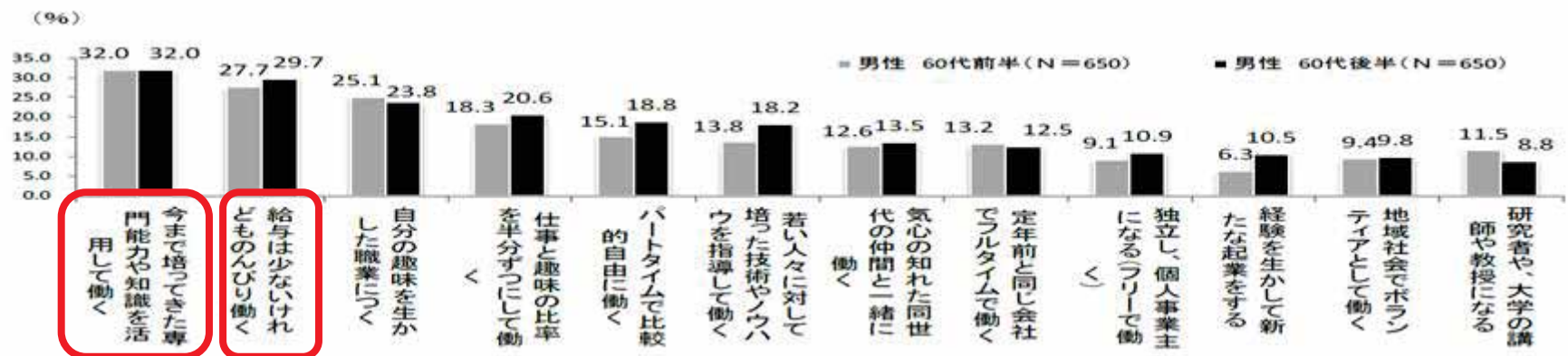
	(N)	全体	2,481	69.3	64.6	63.4	47.4	45.0	44.3	44.0	31.4	13.5	1.5	0.7
働き方バターン別	全体	2,481	69.3	64.6	63.4	47.4	45.0	44.3	44.0	31.4	13.5	1.5	0.7	
	中断・再開層	1,441	67.0	58.8	54.6	44.4	36.6	41.8	38.9	22.0	13.6	1.3	0.9	
	中止層	1,040	72.6	72.6	75.6	51.4	56.6	47.8	51.2	44.5	13.5	1.7	0.5	

■ 全体+5%以上 ■ 全体-5%以下

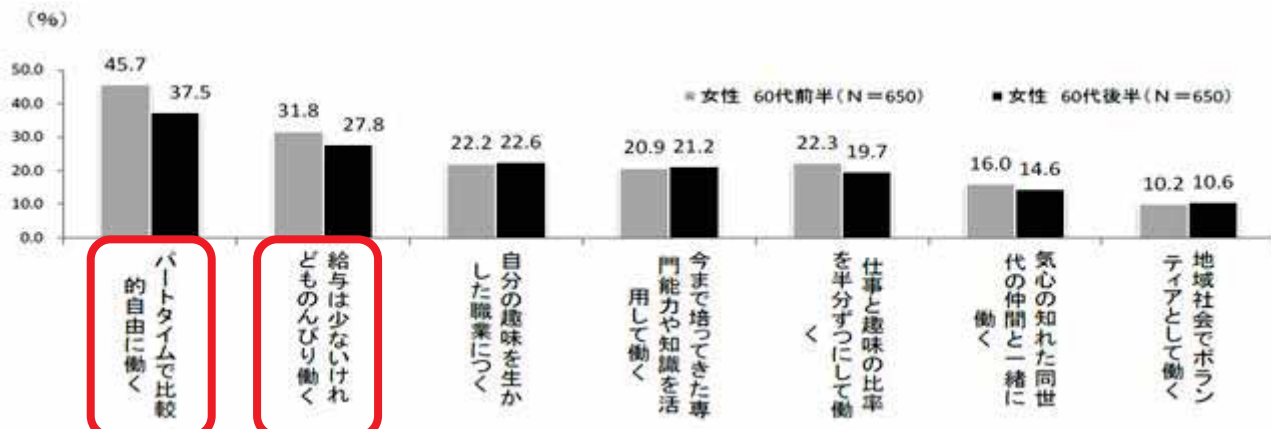
参考：電通総研「シニア×働き方調査」より

理想の働き方は「のんびり働くこと」(男女)
 「専門能力を生かす」(男性)「自由に働く」(女性)

■ 男性



■ 女性



■ 「シニア×働く」調査 調査概要

- 調査対象：60代後半に就労経験のある60～69歳 2,600名
- 調査対象エリア：首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、関西圏（京都府、大阪府、兵庫県）、中京圏（岐阜県、愛知県、三重県）
- サンプルの構成は以下のとおり

	男性		女性		合計
	60-64歳	65-69歳	60-64歳	65-69歳	
首都圏	300	300	300	300	1,200
関西圏	200	200	200	200	800
中京圏	150	150	150	150	600
合計	650	650	650	650	2,600

・調査時期：2015年3月21日(土)～25日(水)
 ・調査手法：インターネット調査
 ・調査会社：株式会社 ビデオリサーチ